

論点1 水源地域をどのように振興すべきか。

○何が課題なのか。

- ・過疎化、人口減少、少子高齢化
- ・担い手の不足、地元民の消極性
- ・社会インフラの老朽化、自治体財政
- ・産業の衰退
- ・林業の衰退、水源林保全の困難性 等

○振興のゴールは何か(どのような状態を達成すれば良いのか)。

- ・地域の発展(維持)
- ・地域住民の生活水準、満足度の向上
- ・健全な水循環の維持・回復のための水源の保全

○振興に必要なものは何か(何が足りないのか)。

- ・どのような人材や組織が求められるか。
- ・振興に関心のない住民の意識をどのように高めるべきか。
- ・どのように軸(核、地域の魅力)を作るか。(観光資源、物産、交流拠点 等)

(追加的に検討すべき事項)

○すべての地域を存続させなければならないのか。(→循環型社会、持続可能性)

○存続させる必要がない地域があるとすれば、その地域はどうすればよいのか。

論点2 地域外之力(企業、NPO等)を水源地域振興に取り入れるにはどうすればよいか。

○企業、NPO等の目を水源地域に向けさせるためにはどうすればよいか。

○地域外、特に下流地域に対する意識啓発をどのように行うべきか。

- ・どのような広報戦略が有効か。

○水源地域を支援したい個人・団体と、それらを必要とする地域のマッチングをどのように行えばよいか。

○地域(地域住民)と外部支援のバランスをどう考えるか。

- ・本来は地域主体で行うべきだが、地域にその力が足りない場合に求められる外部支援の関与度合いはどうあるべきか。

論点3 そのために国、自治体は何をすべきか。

- 自治体と企業、NPO等との連携方策
- 既存の施策の活用(例:地方創生、森林環境税、基金事業 等)
- 優良事例の横展開
- 制度以外のアプローチ(例:インフラツーリズム、モデル事業、ポータルサイト)
- 自治体がこれらの手法を効果的に活用できるような指針(ガイドライン)策定
- 新たな制度的枠組み(特に水源地域振興に下流の負担を求めるような仕組み)